

# 活動報告

## 復職支援事業

## 実務研修の体験談

## ～最新報告～

ライフサポート部

会員ライフサポート部

活動報告

職場環境を考える

第63報

前号で報告しましたように、本会では離職中の方の復職を後押しできるよう、実際の現場で研修（見学や臨床体験）する事業を始めて8年目となりました。今年度は2名の方が研修を受けられ、研修体験を報告してくださいましたのでご紹介します。それぞれの離職理由や抱える不安は違いますが、実際の現場での見学や体験を通して、復職までの具体的な課題が見つかり前向きに活動できることを願っています。来年度もこの事業は継続します。研修希望者募集中です。研修にご協力いただける施設も募集中です。詳しくはホームページをご覧ください。

### 介護老人保健施設コスモス(午前中だけの5日間)

#### ●参加の動機●

横浜市在住の者です。新卒で小田原市の総合病院に約2年間勤めました。主人の転勤と出産が重なり退職、その後引っ越しをくり返し昨年横浜に戻ってきました。3人の子供達が小学校にあがったので、復職をしたいと思うようになりました。

しかし、経験が浅いうえ、ブランクが10年以上と非常に長く、主人も多忙、両親の助けも受けられない状況で、なかなか踏み出せずにいました。勇気を出して行ったハローワークで「2年でも経験になります！」と言われたのをきっかけに、復職研修を受けようと思いお願いすることにしました。

ライフサポート部の方からはすぐにお返事をいただき、研修先は家から近い介護老人保健施設コスモスに決まりました。その後はコスモスの先生と直接やり取りをして当日を迎えました。

#### ●研修内容●

研修期間は2017年12月平日の5日間、時間帯は午前中でお願しました。初日は施設見学から始まり、老健コスモスの特徴、リハビリの基本的な考え方、特養と老健の違い、地域リハビリや医療介護の連携などについてお話をお聞きました。その後は先生の担当利用者さんのリハビリを見

学させていただきました。私は実務経験が浅いので、学生の実習のように基礎的な評価から教えていただきました。3日目には訪問リハに同行させていただき2軒のお宅を訪ねました。毎回終わりには振り返りをしていただき、今後どのような施設で働けるだろうかという相談にもものっていただきました。

#### ●研修を終えて●

今回の研修で一番よかったこと、それは地域の理学療法士の方と繋がることができた、ということです。今後自分がどこで働けるかそれはまだ分かりませんが、この繋がりは私にとってとても心強いことです。そして担当して下さった先生の考え方にも共感でき、私もその心を忘れないでいつか復職できたらと思えるようになりました。10年ぶりの現場に始めは緊張しましたが、雰囲気や理学療法士の方々の姿勢は10年前と変わっていないと感じ、自分もまたこの職場に戻れるかもしれないと少し自信を持つことができました。以前勤めていた頃のこと色々と思い出しました。勉強面に関しては教科書を見ることから始めなければなりませんが、主婦の世界から一歩踏み出す良い機会となりました。年末のお忙しい中、老健コスモスの先生方、ライフサポート部の方には大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

### (有) 訪問看護リハビリテーションネットワーク 訪問看護リハビリテーション麻生 (2日間)

#### ●参加の動機●

急性期病院（回復期病棟あり）で3年半だけ勤務後、青年海外協力隊への参加で2年間日本を離れ、その後も家庭の事情により海外在住期間が約2年、帰国後も休職期間が約2年あり、日本の臨床現場から離れてからはおよそ6年間のブランクがありました。

色々な思いから、復職せずに転職することを考えた時期もありましたが、日本での勤務中から関心のあった訪問リ

ハビリの分野に再度興味を持つことがあったことを機に、県士会会報で以前目にしていた復職支援研修の存在を思い出し、問い合わせさせて頂きました。実際の復職の時期や方向性は未定のままでしたが、研修に参加させて頂くことで具体的な復職のイメージやそれまでに必要な準備期間が見えてくればいいのでは、と思い申し込みに至りました。

#### ●研修内容●

研修2日間で7件の訪問に同行させて頂きました。訪問先



では、リハビリ実施の様子を見学させて頂くだけでなく、患者様が使用されている医療用具・福祉用具を拝見したり、担当の先生方がそれまでに住環境の改修・調整などでどのような点に介入されてきたか等もお話を聞くことができました。

その他、朝の訪問開始前の時間帯には、朝ミーティングへの参加や、担当の新井先生からの講義も受けさせていただきました。講義では、訪問リハビリにおける理学療法士の役割について、地域の中でどのような施設でどのような職種の方々と連携を持っているのか、また特に、川崎市に特有のネットワークにどのようなものがあるのか、その中で理学療法士として今後期待される専門性や能力がどのようにあるのか等お話し頂きました。

また、各患者様のリハビリ終了後や講義の時間を使って、見学を通しての質問も随時させて頂くことができました。

#### ●研修を終えて●

非常に率直かつ単純な感想ですが、今回研修を受けさせて頂いて本当に良かったです。

理学療法士としての復職にもまだ若干迷いがある中、参考書や研修では絶対にわからない現場での雰囲気や、患者様と直接関わることのできる魅力を、離職以来改めて身をもって感じ、また今までの自分の知識や概念では至らなかった訪問リハビリの難しさと奥深さを感じる事ができ、非常に有意義な研修となりました。

理学療法士としての医学的な知識や保険制度に関すること、その他、今後復職を考えるにあたって、準備・勉強しなければならないことの多さを思い知らされ、戸惑う部分も非常に多くありますが、少しずつでも勉強や経験を重ね、訪問リハビリの世界で今後復職してみたいという思いに至る大きな後押しとなりました。

研修を受け入れてくださった、訪問看護リハビリテーション麻生の先生方、またこのような貴重な研修の機会を提供して下さっている神奈川県士会、そして、全ての手配を迅速かつ丁寧にしてくださったライフサポート部に、心から感謝申し上げます。

#### ●平成30年度研修会&交流会のお知らせ●

テーマ：今だから聞こうシリーズ「働き続けるためにコミュニケーションを見直そう」その2

講師：中村有先生（東邦大学医療センター大橋病院：臨床心理士）

日時：平成30年7月7日（土）9：30～12：00

内容：スタッフ間や患者さんとのコミュニケーションにも有用な技術である「傾聴」技法を中心に復習し、具体的な悩み事例も交えてコミュニケーション方法を見直します。

※みなさんのコミュニケーションにまつわるお悩みを募集しています！（募集期間：平成30年4月末まで）

→ライフサポート部までメール（lifesupport@pt-kanagawa.or.jp）でお寄せ下さい。

## 第35回神奈川県理学療法士学会を終えて

第35回神奈川県理学療法士学会 運営委員 総務係

平成30年3月25日（日）に、パシフィコ横浜にて第35回神奈川県理学療法士学会が開催されました。学会当日は、学会長賞を決める口述発表5演題からはじまり、合計では過去最大の158演題の発表が行われ、盛況を得るに至りました。学会運営にあたり、林会長、内田担当理事を

はじめとした県士会理事の先生方や学術大会部の先生方の多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、今回参加された県士会員の皆様、県民の皆様、他士会員の皆様にも重ねて御礼申し上げます。

